

日本がん看護学会 患者・家族参画プログラム 2025

◆スケジュール(予定)

2025年2月22日(土)9:45~17:00

2025年2月23日(日)9:30~16:15

患者・家族参画オリジナルプログラム

日 時	2月22日(土)9:45~9:55
開 会	鈴木 久美 (日本がん看護学会 理事長)
オリエンテーション	花出 正美 (日本がん看護学会社会連携委員会 委員長)
会 場	第5会場(グランドメルキュール札幌大通公園2階 クリスタルルームA)
開催方法	現地開催

オリジナルプログラム1

看護が大切にしていること—特別講演「PatientからPersonへ」を通して—

座 長	梅田 恵 (ファミリー・ホスピス株式会社 がん看護専門看護師)
日 時	2月22日(土)10:00~11:30
会 場	第5会場(グランドメルキュール札幌大通公園2階 クリスタルルームA)
開催方法	現地開催
企画意図	学術集会の特別講演「PatientからPersonへ」 <講師:石垣靖子(北海道医療大学 名誉教授)、座長:川村三希子(札幌市立大学 看護学部 教授)>をサテライト視聴します。 その後、みなさんからのご質問や感想をうかがいながら、看護が大切にしていることをがん体験者(患者・家族)のみなさんにも知ってもらい、がん体験者と看護師の対話の機会としたいと考えています。

オリジナルプログラム2

看護レンジャー—その悩み、私たちに任せてください！—

講 師	岸田 さな江 (獨協医科大学病院 がん看護専門看護師) 市原 香織 (淀川クリスト教病院 がん看護専門看護師) 大友 陽子 (がん研究会有明病院 がん看護専門看護師) 鈴木 綾子 (北海道がんセンター 皮膚・排泄ケア認定看護師) 太田 愛 (手稲渓仁会病院 遺伝看護専門看護師)
座 長	桜井 なおみ (全国がん患者団体連合会) 轟 浩美 (全国がん患者団体連合会)
日 時	2月22日(土)12:00~13:30
会 場	第5会場(グランドメルキュール札幌大通公園2階 クリスタルルームA)
開催方法	現地開催
企画意図	専門看護師・認定看護師が、それぞれの役割や活動について紹介します。 また、がん体験者(患者・家族)のみなさんが体験した気がかり・困りごとに関して、看護師がどのようなケアを提供できるのかを回答します。 対話を通して、がん体験者と看護師が相互理解を深める機会としたいと考えています。 昼食を食べながら参加可能です。

オリジナルプログラム3

地域の実情や病院の特性に合わせた在宅がん医療

講 師	部川 玲子 (北見赤十字病院 がん看護専門看護師) 梶原 陽子 (札幌南徳洲会病院 がん看護専門看護師)
座 長	天野 慎介 (全国がん患者団体連合会) 佐野 英昭 (北海道がん患者連絡会)
日 時	2月23日(日)12:00~13:00
会 場	第5会場(グランドメルキュール札幌大通公園2階 クリスタルルームA)
開催方法	現地開催
企画意図	病院、訪問看護等の立場から、北海道地域の実情や病院の特性に合わせた在宅がん医療、がん看護の取り組みや利用できるサービス・制度を紹介します。 看護師とがん体験者が共に、外来・入院・在宅にわたる医療機能の分化・強化を通じた必要な医療と連携について学び、考える機会としたいと考えています。 本プログラムは、学術集会のシンポジウム1「地域の実情や病院の特性に合わせた在宅がん医療の様々なかたち～北海道での取り組みをもとに、自分の地域(まち)でのあり方を考えよう～」を、がん体験者参加型にアレンジしたプログラムのイメージです。 昼食を食べながら参加可能です。

第39回日本がん看護学会学術集会の聴講可能プログラム

教育講演5

がんゲノム医療の現状と今後の展望 ー将来の保険適用やドラッグ・ラグ解消に向けてー

講 師	木下 一郎（北海道大学病院 がん遺伝子診断部 教授）
座 長	村上 好恵（慶應義塾大学 看護医療学部 教授）
日 時	2月23日(日)10:45~11:45
会 場	第2会場(グランドメルキュール札幌大通公園2階 エンプレスホール)
開催方法	現地開催
企画意図	我が国では、がん遺伝子パネル検査が実装され、さらに将来的ながん・難病等の克服を目指し、「全ゲノム解析等実行計画」が策定されている。その事業の目的は、がんゲノム検査の成果をより早期に患者に還元し、新たな個別化医療等を実現し日常診療への導入を目指す、解析結果を研究・創薬などに活用することである。出口戦略としては、遺伝子異常に応じた保険適用薬、未承認・適応外薬の治療、治療が実施できない場合でも、先進医療や患者申出療養等として実施したうえで、将来的な保険適用を目指すことが重要である。その目標に向け、がん患者や家族、医療者やそれを支える人々の努力が実り、患者申出療養制度を活用して患者に恩恵をもたらす成果も始めている。保険適応やドラッグ・ラグ解消に向けての取り組みを理解することで、がんゲノム医療の現状と今後の展望を看護師が知る機会としたい。

シンポジウム1

地域の実情や病院の特性に合わせた在宅がん医療の様々なかたち
～北海道での取り組みをもとに、自分の地域(まち)でのあり方を考えよう～

シンポジスト	笹原 千晶（医療法人済仁会 手稻済仁会病院 患者サポートセンター 短期訪問看護室りんく管理者） 梶原 陽子（医療法人徳洲会 札幌南徳洲会病院 看護部 看護責任者） 島田 啓志（国民健康保険由仁町立診療所 医長） 部川 玲子（北見赤十字病院 看護部 師長）
座 長	石岡 明子（北海道大学病院 看護部 副看護部長） 廣岡 佳代（国立大学法人 東京科学大学大学院 保健衛生学研究科 在宅・緩和ケア看護学分野）
日 時	2月22日(土)15:30~17:00
会 場	第1会場(グランドメルキュール札幌大通公園3階 ボールルームABC)
開催方法	現地開催
企画意図	近年、がん治療の選択肢は急速に増え、退院後も自宅等での生活を続けながら外来等で治療を継続する患者が増えている。しかし、住み慣れた地域において在宅緩和ケアを希望しても、その地域における医療提供体制や人的資源などの実情により、実現が難しい場合がある。これに加えて、患者や家族の高齢化や家族構成の変化、在院日数の短縮など様々な要因に伴い、治療期からの在宅へのシームレスな移行が難しく、移行の機会を逃してしまう場合もある。このような課題に対し、限られた状況でも新しいアプローチを模索し、がん患者とその家族のニーズに応えていると考えられる。今回は、広域な北海道における在宅がん医療・がん看護の取り組みを紹介し、病院、診療所、訪問看護それぞれの立場から地域の実情や病院の特性に合わせた在宅がん医療の形について話し合い、外来・入院・在宅にわたる医療機能の分化・強化を通じた必要な医療と連携についてともに学び、ともに考える機会としたい。

シンポジウム2

がんになつても自分らしく暮らせる社会を目指してーがん対策を患者に届けるためにー

シンポジスト	箕浦 祐子（厚生労働省 健康・生活衛生局 がん・疾病対策課 課長補佐） 森田 佳美（奈良県福祉医療部 医療政策局疾病対策課 課長補佐） 橋本 久美子（聖路加国際病院 相談支援センター、AYAサバイバーシップセンター アシスタントナースマネージャー） 瀧川 千鶴子（KKR札幌医療センター 緩和ケア内科 副院長）
座 長	關本 翌子（国立がん研究センター中央病院 看護部 看護部長） 田中 いずみ（医療法人済仁会 手稻済仁会病院 看護部 副院長・看護部長）
日 時	2月22日(土)13:45~15:15
会 場	第2会場(グランドメルキュール札幌大通公園2階 エンプレスホール)
開催方法	現地開催
企画意図	2023年に策定された「第4期がん対策推進基本計画」では、がん患者を含め国民ががんを知り、がんの克服を目指すということを目標としており、三つの柱として、「がん予防」「がん医療の充実」「がんとの共生」を、これに加え、基盤の整備として「がん研究」「人材の育成」「がん教育普及啓発」を位置づけている。これらは、高度ながん治療だけが推進されるのではない。がんになつても慌てない社会に向けて、社会全体でがんという病気に向き合い、がん患者が実際に直面する課題に届く支援が大切である。講師には、国のがん対策の現状、地域でのがん予防およびがん医療の見える化の取り組み、早期からの緩和ケアへの取り組み、AYA世代患者などへの情報提供と支援の在り方について共有する。そして、それぞれにがん対策への課題、看護師への期待についてお話をいただく。

パネルディスカッション2

納得がいく意思決定のための支援 ー患者のヘルスリテラシーを高める情報提供・コミュニケーションー

パネリスト	中山 和弘 (聖路加国際大学大学院 看護学研究科 教授) 近藤 まゆみ (北里大学病院 看護部 師長) 佐藤 こずえ (北海道大学病院 がん相談支援センター 医療ソーシャルワーカー) 滝澤 ひとみ (Luxia(ラクシア) 代表/北海道がんセンター がん相談支援センター ピアソーター)
座 長	松山 茂子 (市立札幌病院 地域連携センター部) 佐藤 明美 (札幌医科大学附属病院 医療連携福祉センター 主査)
日 時	2月22日(土)15:00~17:00
会 場	第10会場(札幌市教育文化会館1階 大ホール)
開催方法	現地開催
企画意図	ヘルスリテラシーとは、健康情報を入手、理解、評価、活用し、生涯を通じて生活の質を維持・向上できる力であり、また情報に基づいて意思決定する力である。より良い意思決定には、十分に情報を得て、個人の価値観と一致した決定をすることが必要であり、私たち看護師は、決定した人が自己の意思決定に満足(納得)できるよう支援することが求められる。 本パネルディスカッションでは、看護情報学の立場から、ヘルスリテラシーや、ヘルスリテラシーに合わせた意思決定支援のための情報提供のあり方について概説していくいただく。そして、がん看護実践者、医療ソーシャルワーカーの立場からは、がん患者に対する情報提供、意思決定支援について実践を紹介していくいただく。がんサバイバーの立場からは、情報や意思決定に関連した体験を紹介していくいただく。 さらに、ディスカッションを通して、患者にとって納得がいく意思決定を支援するために、患者のヘルスリテラシーを高める情報提供・コミュニケーションについて、考える機会としたい。

パネルディスカッション3

がん患者へのアピアランスケア:誰もがケアを受けられる社会に向けて

パネリスト	高田 美香 (青森県立中央病院 看護部外来看護班 上席看護専門官) 三井 里美 (AYA世代患者会アヤキタ!会員/北海道札幌養護学校 白桜高等学園 教諭) 吉尾 和代 (HAIR&MAKE SALON 8(ヘアメイクサロン ハチ) 代表/メイクアップアーティスト 一般社団法人CANnet 医美Labo北海道) 藤間 勝子 (国立がん研究センター中央病院 アピアランス支援センター センター長)
座 長	阿部 恒子 (東京医療保健大学 千葉看護学部 教授) 納谷 さくら (医療法人東札幌病院 看護部 看護課長)
日 時	2月23日(日)9:30~11:30
会 場	第1会場(グランドメルキュール札幌大通公園3階 ボールルームABC)
開催方法	現地開催
企画意図	アピアランスケアは、従来、がん薬物療法中の脱毛や皮膚トラブル、乳房切除術後の乳房の変形・喪失といった、治療中の有害事象や手術治療後の容姿のケアに主眼を置いてきた。近年、腫瘍の発生する部位、例えば、皮膚がん、耳下腺がん、歯肉がん、頭頸部がんなどの外見の変化などもケアの対象となり、アピアランスケアとしてのサポートが求められる癌腫が増えている。 また、アピアランスケアが提供される場も広がっており、医療機関での外来通院治療室やがん相談支援センター、アピアランスケア相談のほか、がん患者をサポートする団体での支援活動など多岐にわたる。 本パネルディスカッションでは、アピアランスケアを提供している医療者や団体の関係者と当事者によるディスカッションをとおして、アピアランスケアのトピックや、がん患者が使用できるリソース、助成に関する新制度など、様々な視点から、誰もがケアを受けられる社会に向けてダイナミックな変化を考えていく。

パネルディスカッション5

がんと性のことを語り合う ーあなたはがん患者さんやご家族の問いかけに応えられますか?ー

パネリスト	高橋 都 (NPO法人日本がんサバイバーシップネットワーク 代表理事/岩手医科大学 医学部 客員教授/東京慈恵会医科大学 医学部 客員教授) 渡邊 知映 (昭和大学 保健医療学部 教授) 松田 夕香 (北海道公立大学法人 札幌医科大学附属病院 看護部 副看護師長) 岸田 徹 (NPO法人がんノート 代表理事)
座 長	高野 純子 (一般財団法人同友会 藤沢湘南台病院 看護部 副師長) 佐藤 一樹 (名古屋大学大学院 医学系研究科総合保健学専攻 教授)
日 時	2月23日(日)13:15~15:15
会 場	第2会場(グランドメルキュール札幌大通公園2階 エンプレスホール)
開催方法	現地開催
企画意図	がんの進行や治療は、恋愛、結婚、性生活・妊娠・出産といった性機能や生殖機能などに影響を与えることがある。がん患者・パートナーが相談しにくく感じる不安や悩みの一つが性に関することであり、医療者からも話しおくいテーマの一つと言えるだろう。 看護師および医師の立場から、がん治療による性生活への影響と対処法、性に関する悩みを抱えるがん患者・パートナーへの支援について概説する。 看護実践者の立場から、性に関する悩みを打ち明けられた時の対応について共有する。 がんサバイバーの視点からは、がん患者・パートナーが直面する性に関する悩みについて、どのような支援が有用かを共有していく。 がんと性に関することを語り合い、がん患者・パートナーが直面する性に関する悩みについて理解を深め、看護師として何ができるのかと一緒に考え、学ぶ機会としたい。

第39回日本がん看護学会学術集会 社会連携委員会企画

社会連携委員会企画:Nursing Science Café

“がん”ってどんな病気？“ナース”ってどんな仕事？

講 師	中谷 亮太（北海道大学病院 がん看護専門看護師） 青田 美穂（東札幌病院 緩和ケア認定看護師）
座 長	大友 陽子（がん研究会有明病院 がん看護専門看護師）
日 時	2月23日(日)13:30～14:30
会 場	第4会場(グランドメルキュール札幌大通公園2階 ハイネスホール)
開催方法	現地+ライブ配信、後日オンデマンド配信あり
企画意図	Nursing Science Caféとは、将来看護師を目指す方、看護に興味がある方に看護について知ってもらい、語り合ったり考えたりするプログラムです。今回のNursing Science Café 2025では、私たちが専門としている“がん”という病気について簡単に解説します。そして、がん医療の現場で働くナース2名が、がん患者さん・家族にどのように関わっているのか、ナースを目指したきっかけや仕事の魅力についてお話しします。さらに、みなさんの“ナースの仕事”に関する疑問・質問に時間の限りお答えいたします。ナースの仕事を目にする機会は、自分が風邪などを引いて病院を受診するときや、身近な誰かが入院してお見舞いに訪れるときなど、多くはないと思います。ぜひ、次世代を担う高校生・中学生やご家族などのみなさんに、ナースの仕事の魅力を知ってもらい、将来目指す職業に加えていただけるとうれしいです。

社会連携委員会企画:市民公開講座

地域のがん医療について考える～北海道からの発信～

講 師	中村 英俊（北海道保健福祉部健康安全局地域保健課 課長補佐(がん対策)) 内村 郁美（釧路労災病院 がん看護専門看護師） 藤原 葉子（ホームケアクリニック札幌 院長） 田巻 憲史（帯広協会病院 医療ソーシャルワーカー） 斎藤 浩哉（北海道がん患者連絡会 世話人） 岩本 進（北海道新聞社 編集局報道センター記者(医療担当)）
司 会	市原 香織（淀川キリスト教病院 がん看護専門看護師） 天野 慎介（全国がん患者団体連合会 理事長）
日 時	2月23日(日)14:45～16:15
会 場	第4会場(グランドメルキュール札幌大通公園2階 ハイネスホール)
開催方法	現地+ライブ配信
企画意図	第4期がん対策基本推進計画では、誰一人取り残さないがん対策が推進されています。各地域では、少子・高齢化の影響、格差、孤立などの課題はありますが、患者と家族が住み慣れた地域で、継続してがん医療や介護が受けられ、安心して生活できることが求められます。今回の市民公開講座では、北海道のがん対策をご紹介し、がん相談支援センターで活躍する看護師、医療ソーシャルワーカー、在宅医療・ケアを担う医師の立場から、地域でがん医療・看護・介護を受ける仕組みやリソース活用についてお伝えします。がんになっても自分らしく、豊かな暮らしを実現するための取り組みを共に考えたいと思います。

※諸事情により、テーマ、演者、スケジュールなどを予告なく変更することがありますので、ご了承ください。

<2024年12月10日現在>